

腫瘍・血液内科

教授：矢野 真吾	血液腫瘍学, 造血幹細胞移植学
教授：薄井 紀子 (輸血部に出自中)	血液腫瘍学
教授：島田 貴	血液腫瘍学
教授：土橋 史明	血液腫瘍学
准教授：宇和川 匡 (外科学講座より出自中)	臨床腫瘍学, がん薬物療法
准教授：増岡 秀一 (輸血部に出自中)	血液腫瘍学
准教授：西脇 嘉一	血液腫瘍学, 造血幹細胞移植学
講師：矢萩 裕一	血液腫瘍学
講師：齋藤 健	血液腫瘍学, 造血幹細胞移植学
講師：塩田 祐子	血液腫瘍学
講師：南 次郎	血液腫瘍学
講師：荒川 泰弘	臨床腫瘍学, がん薬物療法
講師：大場 理恵	血液腫瘍学
講師：香取美津治	血液腫瘍学

教育・研究概要

腫瘍・血液内科では、良性血液疾患、造血器悪性腫瘍、固形がんを三つの柱として幅広い診療を行っている。悪性腫瘍の制圧は私たちに課された最優先課題の一つであり、造血器悪性腫瘍に対する化学療法と造血幹細胞移植療法、固形がんに対する集学的治療に力を注いでいる。エビデンスに基づいた標準治療から最新の治療まで、患者さんに病態に応じた最適な医療を提供できるように努めている。そのため質の高い全国規模の臨床研究に特に力を入れている。学生教育においては臨床実習での教育を重視しており、実際のベッドサイドで患者さんから医学を学ぶよう配慮している。卒後研修医・レジデントに対しては、医局会や学会で症例報告の機会を与え、プレゼンテーション能力の教育を行っている。

I. 急性白血病の臨床研究

日本成人白血病治療共同研究グループ (Japan Adult Leukemia Study Group: JALSG) に参加し、多施設共同で質の高い臨床研究を行っている。特に急性骨髄性白血病 (AML) の症例登録数は全国で3番と、当科での臨床の activity の高さを示している。

1. AML

AML の予後因子としては染色体核型、遺伝子異常、年齢、初発時白血球数、3系統の形態異常などがあげられるが、重要な予後因子は染色体核型と遺伝子異常である。予後良好な AML は化学療法または分化誘導療法により、5年生存率60%の生存率が得られるが、予後中間群と不良群は HLA 一致の血縁者ドナーがいる場合は同種造血幹細胞移植が推奨されている。当科では適切な医療を提供するため、正確に予後分析を行い、最適な多剤併用化学療法を施行している。治療は防護環境棟で行い、必要に応じて同種造血幹細胞移植療法を取り入れている。多施設共同臨床試験としては、JALSG AML209 GWS (成人急性骨髄性白血病の発症・進展および治療反応性、副作用に関係する遺伝子異常の網羅的解析) の臨床試験に参加している。

2. 急性リンパ性白血病 (ALL)

ALL は、複数の遺伝子の異常が多段階的に集積することが発症の原因と考えられている。予後因子として、年齢、初診時白血球数、染色体核型、寛解到達までの期間などが報告されている。ALL は AML と比べて予後が不良のため、多施設共同臨床試験に参加し、よく議論して立案された多剤併用化学療法を実施している。また適応症例に対しては同種造血幹細胞移植療法を行っている。

再発性の ALL に対しては、JALSG RR-ALL214 (再発および難治の成人急性リンパ芽球性白血病に対するクロファラビン、エトポシド、シクロホスファミド併用化学療法の第 I / II 相試験) に登録をして臨床試験を行っている。なお当科は JALSG RR-ALL214 の研究事務局を担当している。

II. 慢性骨髄性白血病 (CML) の臨床研究

CML は、9番染色体と22番染色体の相互転座によって生じるフィラデルフィア染色体上で c-abl 遺伝子と bcr 遺伝子が融合し、BCR/ABL キメラ蛋白が産生される。BCR/ABL は強いチロシンキナーゼ活性によって増殖シグナルを促進し、これが CML 発症の主な原因と考えられている。CML に対する初期治療は、特異的チロシンキナーゼ阻害薬のイマチニブ、ニロチニブまたはダサチニブを投与している。治療効果は European Leukemia Net の基準に準じて判定し、細胞遺伝学的効果と分子遺伝学的効果を評価している。最適な治療効果が得られない場合は、薬剤の変更が必要となる。チロシンキナーゼ阻害薬の登場により同種造血幹細胞移植は第一選択の治療ではなくなったが、チロシンキナーゼ阻害薬

に耐性を示す遺伝子変異を認める場合、急性転化を来した場合は、同種造血幹細胞移植療法が必要となる。

CMLにおける今後の課題は、チロシンキナーゼ阻害薬の投与の中止が可能となる患者群を臨床研究で想定していくことである。JALSGではJALSG D-STOP216 study（初発時よりダサチニブが投与され分子遺伝学的完全寛解を2年間以上維持した慢性期の成人慢性骨髄性白血病症例に対する薬剤中止試験）が行われており、当科もこの臨床試験に参加している。

Ⅲ. 造血幹細胞移植の臨床研究

当院における造血幹細胞移植は、小児科が1982年に開始し、内科は1989年から行うようになった。近年当科での移植件数は年間50件を超えるようになり、2016年度は52件であった。原疾患や患者さんの全身状態に合わせて、自家末梢幹細胞移植併用大量化学療法、同種造血幹細胞移植、臍帯血移植、骨髄非破壊の前処置による同種移植、HLA半合致移植の中から最適な移植医療を選択し実施している。

日本造血幹細胞移植学会認定の造血幹細胞移植認定医が中心となって、関東造血幹細胞移植共同研究グループ（KSGCT）や厚労科研造血幹細胞移植合同班会議に参加し、多施設臨床研究に積極的に取り組んでいる。また同種造血幹細胞移植後フォローアップのための看護師研修会を受講した看護師が同種造血幹細胞移植後フォローアップ外来を担当し、医師と一緒に同種移植を受けた患者さんの外来管理を行っている。

現在進行中の多施設共同臨床試験は、KSGCT 1301（難治性濾胞性リンパ腫に対するbendamustineを併用した前処置による同種造血幹細胞移植療法の安全性と有効性の検討）、KSGCT1501（同種造血幹細胞移植後アザシチジン維持療法の用量探索試験多施設共同臨床試験）、KSGCT1502（シクロフォスファミド、フルダラビン併用の静注ブスルファン製剤を用いた移植前治療でのivBuの薬物動態の比較検討）などである。

Ⅳ. 固形がんの臨床研究

2012年4月に地域がん診療拠点病院の指定を受け、「腫瘍センター」として、がん診療に従事している。膀胱がん、胆道がん、胆管がん、食道がん、胃がん、大腸がん、乳がんを対象とし、各臓器疾患別に診療カンファレンスを定期的で開催し、より適

切な治療を討議している。

日本臨床腫瘍学会のがん薬物療法専門医を8名が取得しており、最適で安全な化学療法を実践している。固形がんの診療は外来通院治療を基本としており、快適に治療を受けていただくために、医師・看護師・薬剤師が中心となって機能向上を図っている。また適応症例には「患者手帳」を携帯していただき、副作用の管理を配慮した当科独自の先進的外来化学療法システムを施行している。

1. 食道がん

消化管外科、放射線治療部と共同して、第二世代のDOC+CDDP+5FU+RTの第Ⅱ相研究を開始した。薬剤耐性・感受性探索のため、遺伝子発現も併せた研究である。高リスク症例には、化学放射線療法としてlow dose FP療法を施行した。また副作用としてCDDPの腎障害をL-FABP測定による有用性の検討を開始した。現在、遺伝子解析による食道がん化学療法の有効性および副作用予測に関する臨床研究を実施している。

2. 胃がん

実地医療としてS-1+CDDP療法を再発進行例に行った。サルベージ療法としてパクリタキセル（PAC）単独療法を施行した。HER2陽性胃がんに対しては、XP+HER（Xeloda+CDDP+Herceptin）を施行した。またnab-paclitaxelも臨床導入され、paclitaxelを凌駕する治療係数の向上が期待されている。

3. 大腸がん

多施設共同研究として、オキサリプラチン、ペバシズマブ既治療進行再発大腸がんに対する2次治療ペバシズマブ併用FOLFIRI療法におけるペバシズマブ至適投与量の第Ⅲ相ランダム化比較試験を2010年9月から、また当院外科との共同研究であるEGFR陽性、K-RAS wild type進行・再発大腸がん症例に対する一次治療としてのSOX-cetuximab併用療法の検討（臨床第Ⅱ相試験）を開始している。サルベージ療法として、レゴラフェニブ、TAS102が臨床導入され、予後の改善が期待された。

4. 膵・胆道がん

多施設共同研究としてFGFR2融合遺伝子陽性胆道がんの臨床病理学的、分子生物学的特徴を明らかにするための前向き観察研究、膵がん切除症例に対する術後補助化学療法としてのS-1療法の至適投与期間に関するランダム化第Ⅱ相試験、膵がんにおける腫瘍の発生と進展に関与する遺伝子の役割を行っている。単施設研究として、切除不能胆道がんに対する塩酸ゲムシタビン・シスプラチン・S-1併

用化学療法を実施している。

〔点検・評価〕

1. 教育

卒前教育については、臨床医学講義、テュートリアル、臨床実習などを行った。当科が担当する講義内容は広範に及ぶため、講義は講師以上の教員が担当し、臨床実習は医局員全員で担当している。系統講義は医学を基礎から理解してもらうことに努め、国家試験出題基準に沿った内容を盛り込むように統一した。テュートリアルでは、問題解決型能力を育成することと、自主学習能力を高めることを主眼に、学生主体で進行した。臨床実習は、問題解決型の能力を養うことを目指し、プレゼンテーション能力の育成にも時間をかけた。また系統的に学習できるよう、クルズにも時間を割き充実した内容になるように努めた。

卒後教育では、初期臨床研修医と専門修得コース（レジデント）の教育を行った。初期臨床研修は、医師として必要な内科的な全身管理ができるような教育を心掛けた。特に当科の特性を活かし、抗がん薬投与後の支持療法、感染症の管理について指導した。レジデントには、造血幹細胞移植など難易度の高い診療を担当してもらい、また終末期医療を通じて切れ目のない緩和医療を学んでもらった。

カンファレンスでは自分が担当している患者のプレゼンテーションを行い、臨床的な問題点、今後の治療方針について議論できる能力を養った。また貴重な症例は内科学会、日本血液学会の地方会、医局会で症例発表するようにし、プレゼンテーション能力が向上するように教育している。

2. 研究

1) 多施設共同臨床研究

当科は積極的に多施設共同研究に参加している。主な研究グループはJALSG、日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）、KSGCT、日本造血細胞移植学会のWorking Groupである。当科での臨床業績が認められて、白血病の研究グループであるJALSGでは、研究グループの幹事や臨床試験の研究代表者に当科のメンバーが選ばれている。

造血幹細胞移植の多施設共同研究は、KSGCTと日本造血細胞移植学会のWorking Groupで行っている。KSGCTでは、造血幹細胞移植の前向き研究と後ろ向き研究を行っており、当科も積極的に参加している。当科が研究代表者を務めている研究もあり、研究を通じて当院の造血幹細胞移植のactivityと質の向上に役立っている。また日本造血細胞移植

学会のWorking Groupでは、全国の施設が日本造血細胞学会に登録した膨大な移植データを疾患別に解析している。当科からも幾つかのWorking Groupに参加しているが、成人急性骨髄性白血病のWorking Group（成人AML-WG）では責任者を務めており、他施設のメンバーが解析した研究の指導を行っている。2017年度の研究の成果は、世界的に評価の高いjournalへ多数掲載された。

固形腫瘍では関連各科と共同して臨床研究が推進されている。乳がん、食道がん、胃がん、大腸がんを中心に有機的展開が図られているものの、人力的要因から全病院の要求には応えられていない。主たる国内外での学会発表、論文発表はなされているが、さらに相互交流を進めるとともに、基礎分野との協同の持続的活性化が必要である。

2) 当教室独自の臨床研究

(1) 多くの学会発表を精力的に行ってきた。これは臨床医として非常に重要であることを自覚し、積極的に論文化する姿勢を今後も維持する必要がある。

(2) 問題解決志向の小規模パイロット研究を積極的に推し進めることも重要である。それらの研究に基づき、多施設共同研究での検討へとつなげることが重要と考える。

(3) 教室独自の研究プロトコールが年々増加し、若手研究者の活性化が顕著である。

(4) 学会発表は盛んであるが、論文執筆が不十分である。若手医師の症例報告論文化を礎に推進する。

3) 基礎研究

関連する講座との共同研究が推し進められている。研究結果の幾つかは論文化された。海外留学から帰局した教室員らが骨髄腫や腫瘍免疫を中心として共同研究を遂行している。これらの研究成果の論文化を積極的に行う必要がある。また留学生が帰国後も継続研究可能な新たな研究基盤拡張も課題である。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Fujisawa S (Yokohama City Univ), Mizuta S (Fujita Health Univ), Akiyama H (Tama-Hokubu Med Hosp), Ueda Y (Kurashiki Central Hosp), Aoyama Y (Seichokai Fuchu Hosp), Hatta Y (Nihon Univ), Kakihana K (Komagome Hosp), Dobashi N, Sugiura I (Toyohashi Municipal Hosp), Onishi Y (Tohoku Univ), Maeda T (Saitama Med Univ), Imai K (Sapporo Hokuyu Hosp), Ohtake S (Kanazawa Univ), Miyazaki Y (Nagasaki Univ), Ohnishi K (Hamamatsu

- Univ), Matsuo K (Aichi Cancer Ctr Res Inst), Naoe T (Natl Hosp Org Nagoya Med Ctr). Phase II study of imatinib-based chemotherapy for newly diagnosed BCR-ABL-positive acute lymphoblastic leukemia. *Am J Hematol* 2017; 92(4) : 367-74.
- 2) Kawamura K¹⁾, Kako S¹⁾, Mizuta S (Toyohashi Med Ctr), Ishiyama K (Kanazawa Univ), Aoki J²⁾, Yano S, Fukuda T (Natl Cancer Ctr Hosp), Uchida N (Toranomon Hosp), Ozawa Y (Japanese Red Cross Nagoy Daiichi Hosp), Eto T (Hamanomachi Hosp), Iwato K (Hiroshima Red Cross Hosp), Kanamori H²⁾ (² Kanagawa Cancer Ctr), Kahata K (Hokkaido Univ), Kondo T (Kyoto Univ), Sawa M (Anjo Kosei Hosp), Ichinohe T (Hiroshima Univ), Atsuta Y (Nagoya Univ), Kanda Y¹⁾ (¹ Jichi Med Univ). Comparison of conditioning with fludarabine/busulfan and fludarabine/melphalan in allogeneic transplantation recipients 50 years or older. *Biol Blood Marrow Transplant* 2017; 23(12) : 2079-87.
- 3) Kondo T (Hokkaido Univ), Nagamura-Inoue T¹⁾, Tojo A¹⁾, Nagamura F¹⁾, Uchida N (Toranomon Hosp), Nakamae H (Osaka City Hosp), Fukuda T (Natl Cancer Ctr Hosp), Mori T (Keio Univ), Yano S, Kurokawa M¹⁾ (¹ Univ Tokyo), Ueno H (Tokyo Med Ctr), Kanamori H (Kanagawa Cancer Ctr), Hashimoto H (Kobe General Hosp), Onizuka M (Tokai Univ), Takanashi M (Japanese Red Cross Soc), Ichinohe T (Hiroshima Univ), Atsuta Y (Nagoya Hosp), Ohashi K (Komagome Hosp). Clinical impact of pretransplant use of multiple tyrosine kinase inhibitors on the outcome of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for chronic myelogenous leukemia. *Am J Hematol* 2017; 92(9) : 902-8.
- 4) Mizutani M¹⁾, Takami A¹⁾, Hara M (Osaka Univ), Mizuno S¹⁾ (¹ Aichi Med Univ), Yanada M (Fujita Health Univ), Chou T (Niigata Cancer Ctr Hosp), Uchiyama H (Japanese Red Cross Kyoto Daiichi Hosp), Ohashi K (Komagome Hosp), Miyamoto T (Kyushu Univ), Ozawa Y (Japanese Red Cross Nagoya Daiichi Hosp), Imataki O (Kagawawa Univ), Kobayashi N (Sapporo Hokuyu Hosp), Uchida N (Toranomon Hosp), Kanamori H (Kanagawa Cancer Ctr), Kamimura T (Harasanshin Hosp), Eto T (Hamanomachi Hosp), Onizuka M (Tokai Univ), Tanaka J (Tokyo Women's Medical Univ), Atsuta Y (Nagoya Univ), Yano S. Comparison of autologous and unrelated transplants for cytogenetically normal acute myelogenous leukemia. *Biol Blood Marrow Transplant* 2017; 23(9) : 1447-54.
- 5) Mori J (Univ Tokyo), Yanada M (Fujita Health Univ), Uchida N (Toranomon Hosp), Fukuda T (Natl Cancer Ctr Hosp), Sakura T (Saiseikai Maebashi Hosp), Hidaka M (Kumamoto Med Ctr), Watakabe-Inamoto K (Komagome Hosp), Kanamori H (Kanagawa Cancer Ctr), Ogawa H (Hyogo Coll Univ), Ichinohe T (Hiroshima Univ), Tanaka J (Tokyo Women's Med Univ), Atsuta Y (Nagoya Univ), Yano S. Outcomes of allogeneic hematopoietic cell transplantation in acute myeloid leukemia patients with abnormalities of the short arm of chromosome 17. *Biol Blood Marrow Transplant* 2017; 23(8) : 1398-404.
- 6) 大場理恵, 薄井紀子, 伊藤勇太, 山内浩文, 町島智人, 石井敬人, 福島僚子, 横山洋紀, 塩田祐子, 矢萩裕一, 矢野真吾, 土橋史明, 相羽恵介. Azacitidine 治療が奏効し臍帯血移植を施行した骨髓線維化を伴う骨髓異形成症候群. *臨血* 2017; 58(6) : 601-6.
- 7) Shiseki M¹⁾, Yoshida C (Natl Hosp Org Mito Med Ctr), Takezako N (Natl Disaster Med Ctr), Ohwada A (Tokyo Metropolitan Bokutoh Hosp), Kumagai T (Ohme Municipal General Hosp), Nishiwaki K, Horikoshi A (Nerima-Hikarigaoka Hosp), Fukuda T (Tokyo Med Dent Univ), Takano H (Japanese Red Cross Musashino Hosp), Kouzai Y (Tokyo Metropolitan Tama Med Ctr), Tanaka J¹⁾ (¹ Tokyo Women's Med Univ), Morita S (Kyoto Univ), Sakamoto J (Tokai Central Hosp), Sakamaki H (Komagome Hosp), Inokuchi K (Nippon Med Sch). Dasatinib rapidly induces deep molecular response in chronic-phase chronic myeloid leukemia patients who achieved major molecular response with detectable levels of BCR-ABL1 transcripts by imatinib therapy. *Int J Clin Oncol* 2017; 22(5) : 972-9.
- 8) Terakura S¹⁾, Kuwatsuka Y¹⁾, Yamasaki S (Natl Hosp Org Kyushu Med Ctr), Wake A (Toranomon Hosp Kajigaya), Kanda J (Kyoto Univ), Inamoto Y²⁾, Mizuta S (Natl Hosp Org Toyohashi Med Ctr), Yamaguchi T (Tohoku Univ), Uchida N (Toranomon Hosp), Kouzai Y (Tokyo Metropolitan Tama Med Ctr), Aotsuka N (Japanese Red Cross Narita Hosp), Ogawa H (Hyogo Coll Med), Kanamori H (Kanagawa Cancer Ctr), Nishiwaki K, Miyakoshi S (Tokyo Metropolitan Geriatric Hosp), Onizuka M (Tokai Univ), Amano I (Nara Med Univ), Fukuda T¹⁾ (¹ Natl Cancer Ctr Hosp), Ichinohe T (Hiroshima Univ), Atsuta Y (Japanese Data Ctr Hematopoietic Cell Transplantation), Murata M¹⁾ (¹ Nagoya Univ), Teshima T (Hokkaido Univ). GvHD prophylaxis after single-unit reduced intensity conditioning cord blood trans-

- plantation in adults with acute leukemia. Bone Marrow Transplant 2017; 52(9) : 1261-7.
- 9) Togasaki E¹⁾, Takeda J²⁾, Yoshida K²⁾, Shiozawa Y²⁾, Takeuchi M¹⁾, Oshima M¹⁾, Saraya A¹⁾, Iwama A¹⁾, Yokote K¹⁾, Sakaida E¹⁾, Hirase C (Kindai Univ), Takeshita A (Hamamatsu Univ), Imai K (Sapporo Hokuyu Hosp), Okumura H (Toyama Pref Central Hosp), Morishita Y (JA Aichi Konan Kosei Hosp), Usui N, Takahashi N (Akita Univ), Fujisawa S (Yokohama City Univ), Shiraiishi Y³⁾, Chiba K, Tanaka H³⁾, Kiyoi H⁴⁾, Ohnishi K (Japanese Red Cross Aichi Blood Ctr), Ohtake S (Kanazawa Univ), Asou N (Saitama Med Univ), Kobayashi Y (Natl Cancer Ctr Hosp), Miyazaki Y (Nagasaki Univ), Miyano S³⁾ (³ Univ Tokyo), Ogawa S²⁾ (² Kyoto Univ), Matsumura I¹⁾, Nakaseko C¹⁾ (¹ Chiba Univ), Naoe T⁴⁾⁵⁾ (⁴ Nagoya Univ, ⁵ Natl Hosp Org Nagoya Med Ctr). Frequent somatic mutations in epigenetic regulators in newly diagnosed chronic myeloid leukemia. Blood Cancer J 2017; 7(4) : e559.
- 10) Tojo A (Univ Tokyo), Kyo T (Hiroshima Red Cross Hosp Atomic-bomb Survivors Hosp), Yamamoto K (Aichi Cancer Ctr Hosp), Nakamae H (Osaka City Univ), Takahashi N (Akita Univ), Kobayashi Y (Natl Cancer Ctr Hosp), Tauchi T¹⁾, Okamoto S (Keio Univ), Miyamura K (Japanese Red Cross Nagoya Daiichi Hosp), Hatake K (The Cancer Inst Hosp), Iwasaki H (Kyushu Univ), Matsumura I (Kindai Univ), Usui N, Naoe T (Natl Hosp Org Nagoya Med Ctr), Tugnait M¹⁵⁾, Narasimhan NI²⁾, Lustgarten S²⁾, Farin H²⁾, Haluska F²⁾³⁾ (² ARIAD Pharmaceuticals, ³ BioCancell Therapeutics), Ohyashiki K¹⁾ (¹ Tokyo Med Univ). Ponatinib in Japanese patients with Philadelphia chromosome-positive leukemia, a phase 1/2 study. Int J Hematol 2017; 106(3) : 385-97.
- 11) Fujimoto S¹⁾, Koga T²⁾, Kawakami A²⁾ (² Nagasaki Univ), Kawabata H¹⁾, Okamoto S (Keio Univ), Mizuki M³⁾, Yano S, Ide M (Takamatsu Red Cross Hosp), Uno K⁴⁾, Yagi K⁴⁾ (⁴ Louis Pasteur Ctr), Kojima T (Japanese Red Cross Nagoya Daiichi Hosp), Mizutani M (Matsusaka Central General Hosp), Tokumine Y (Itami City Hosp), Nishimoto N (Osaka Rheumatology Clin), Fujiwara H (Yodogawa Christian Hosp), Nakatsuka SI (Osaka Int Cancer Inst Hosp), Shiozawa K (Hohnan Kakogawa Hosp), Iwaki N (Kanazawa Univ), Masaki Y¹⁾ (¹ Kanazawa Med Univ), Yoshizaki K³⁾ (³ Osaka Univ). Tentative diagnostic criteria and disease severity classification for Castleman disease : a report of the research group on Castleman disease in Japan. Mod Rheumatol 2018; 28(1) : 161-7.
- 12) Harada K¹⁾, Doki N¹⁾, Hagino T¹⁾, Miyawaki S (Otsuka Hosp), Ohtake S (Kanazawa Univ), Kiyoi H (Nagoya Univ), Miyazaki Y (Nagasaki Univ), Fujita H (Saiseikai Yokohama Nanbu Hosp), Usui N, Okumura H (Toyama Pref Central Hosp), Miyamura K (Japanese Red Cross Nagoya Daiichi Hosp), Nakaseko C (Chiba Univ), Fujieda A (Mie Univ), Nagai T (Japanese Red Cross Soc), Yamane T (Osaka City General Hosp), Sakamaki H¹⁾, Ohnishi K (Japanese Red Cross Aichi Blood Ctr), Naoe T (Natl Hosp Org Nagoya Med Ctr), Ohno R (Aichi Cancer Ctr), Ohashi K¹⁾ (¹ Komagome Hosp). Underweight status at diagnosis is associated with poorer outcomes in adult patients with acute myeloid leukemia : a retrospective study of JALSG AML 201. Ann Hematol 2018; 97(1) : 73-81.
- 13) Harada Y¹⁾, Nagata Y²⁾, Kihara R¹⁾, Ishikawa Y¹⁾, Asou N (Saitama Med Univ), Ohtake S (Kanazawa Univ), Miyawaki S (Ohtsuka Hosp), Sakura T (Saiseikai Maebashi Hosp), Ozawa Y³⁾, Usui N, Kanamori H³⁾ (³ Kanagawa Cancer Ctr), Ito Y (Tokyo Med Univ), Imai K (Sapporo Hokuyu Hosp), Suehiro Y (Kyushu Cancer Ctr), Kobayashi S (Natl Defense Med Coll), Kitamura K (Ichinomiya Municipal Hosp), Sakaida E (Chiba Univ), Onizuka M (Tokai Univ), Takeshita A (Hamamatsu Univ), Ishida F (Shinshu Univ), Suzushima H (Kumamoto Shinto General Hosp), Ishizawa K (Yamagata Univ), Naoe T (Natl Hosp Org Nagoya Med Ctr), Matsumura I (Kindai Univ), Miyazaki Y (Nagasaki Univ), Ogawa S²⁾ (² Kyoto Univ), Kiyoi H¹⁾ (¹ Nagoya Univ). Prognostic analysis according to the 2017 ELN risk stratification by genetics in adult acute myeloid leukemia patients treated in the Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG) AML201 study. Leuk Res 2018; 66 : 20-7.
- 14) Kumagai T (Ome Municipal General Hosp), Nakaseko C (Chiba Univ), Nishiwaki K, Yoshida C (Mito Med Ctr), Ohashi K¹⁾, Sakamaki H¹⁾ (¹ Komagome Hosp), Takezako N (Natl Hosp Org Disaster Med Ctr), Takano H (Musashino Red Cross Hosp), Kouzai Y (Tokyo Metropolitan Tama Synthesis Med Ctr), Murase K (Dokkyo Med Univ), Matsue K (Kameda Med Ctr), Morita S (Kyoto Univ), Sakamoto J (Tokai Central Hosp), Wakita H (Narita Red Cross Hosp), Inokuchi K (Nippon Med Sch). Dasat-

- inib cessation after deep molecular response exceeding 2 years and natural killer cell transition during dasatinib consolidation. *Cancer Sci* 2018; 109(1) : 182-92.
- 15) Kuwatsuka Y¹⁾, Tomizawa D (Children's Cancer Ctr), Kihara R¹⁾, Nagata Y (Taussig Cancer Inst), Shiba N (Yokohama City Univ), Iijima-Yamashita Y²⁾, Shimada A (Okayama Univ), Deguchi T (Mie Univ), Miyachi H (Tokai Univ), Tawa A (Osaka National Hosp), Taga T (Shiga Univ), Kinoshita A (St. Marianna Univ), Nakayama H³⁾, Kiyokawa N (Natl Res Inst Child Health Development), Saito AM²⁾, Koh K (Saitama Children's Med Ctr), Goto H (Kanagawa Children's Med Ctr), Kosaka Y (Hyogo Pref Kobe Children's Hosp), Asou N (Saitama Med Univ), Ohtake S (Kanazawa Univ), Miyawaki S (Tokyo Metropolitan Ohtsuka Hosp), Miyazaki Y (Nagasaki Univ), Sakura T (Saiseikai Maebashi Hosp), Ozawa Y (Japanese Red Cross Nagoya Daiichi Hosp), Usui N, Kanamori H (Kanagawa Cancer Ctr), Ito Y (Tokyo Med Univ), Imai K (Sapporo Hokuyu Hosp), Suehiro Y³⁾ (Kyushu Cancer Ctr), Kobayashi S (Natl Defense Med Coll), Kitamura K (Ichinomiya Municipal Hosp), Sakaida E (Chiba Univ), Ogawa S⁴⁾⁵⁾ (Univ Tokyo), Naoe T¹⁾²⁾, Hayashi Y (Gunma Children's Med Ctr), Horibe K²⁾ (Natl Hosp Org Nagoya Med Ctr), Manabe A (St. Luke's Int Hosp), Mizutani S (Tokyo Med Dent Univ), Adachi S⁵⁾ (Kyoto Univ), Kiyoi H¹⁾ (Nagoya Univ). Prognostic value of genetic mutations in adolescent and young adults with acute myeloid leukemia. *Int J Hematol* 2018; 107(2) : 201-10.
- 16) Morishima M, Nobeyama Y, Kamiyama Y, Nakagawa H. Case of engraftment syndrome appearing as scratch dermatitis. *J Dermatol* 2018; 45(2) : e25-6.
- 17) Motohashi K¹⁾, Fujisawa S¹⁾ (Yokohama City Univ), Doki N²⁾, Kobayashi T²⁾ (Komagome Hosp), Mori T³⁾, Usuki K (NTT Med Ctr Tokyo), Tanaka M⁴⁾, Fujiwara S⁵⁾, Kako S⁵⁾ (Jichi Med Univ), Aoyama Y (Tokai Univ), Onoda M (Chiba Aoba Hosp), Yano S, Gotoh M (Tokyo Med Univ), Kanamori H⁴⁾ (Kanagawa Cancer Ctr), Takahashi S (Tokyo Univ), Okamoto S³⁾ (Keio Univ); Kanto Study Group for Cell Therapy (KSGCT). Cytogenetic risk stratification may predict allogeneic hematopoietic stem cell transplantation outcomes for chronic myelomonocytic leukemia. *Leuk Lymphoma* 2018; 59(6) : 1332-37. Epub 2017 Oct 16.
- 18) Najima Y¹⁾, Yoshida C (Mito Med Ctr), Iriyama N (Nihon Univ), Fujisawa S (Yokohama City Hosp), Wakita H (Narita Red Cross Hosp), Chiba S (Tsukuba Univ), Okamoto S (Keio Univ), Kawakami K (Kanagawa Pref Central Hosp), Takezako N (Disaster Med Ctr), Kumagai T (Ohme Municipal General Hosp), Ohyashiki K (Tokyo Med Univ), Taguchi J (Shizuoka Red Cross Hosp), Yano S, Igarashi T (Gunma Pref Cancer Ctr), Kouzai Y (Tama Synthesis Med Ctr), Morita S (Kyoto Univ), Sakamoto J (Tokai Central Hosp), Sakamaki H¹⁾ (Komagome Hosp), Inokuchi K (Nippon Med Univ). Regulatory T cell inhibition by dasatinib is associated with natural killer cell differentiation and a favorable molecular response-The final results of the D-first study. *Leuk Res* 2018; 66 : 66-72.
- 19) Sakura T (Saiseikai Maebashi Hosp), Hayakawa F¹⁾, Sugiura I (Toyohashi Municipal Hosp), Murayama T (Hyogo Cancer Ctr), Imai K (Sapporo Hokuyu Hosp), Usui N, Fujisawa S (Yokohama City Univ), Yamauchi T (Univ Fukui), Yujiri T (Yamaguchi Univ), Kakihana K (Komagome Hosp), Ito Y (Tokyo Med Univ), Kanamori H (Kanagawa Cancer Ctr), Ueda Y (Kurashiki Central Hosp), Miyata Y²⁾, Kurokawa M (Univ Tokyo), Asou N (Saitama Med Univ), Ohnishi K (Japanese Red Cross Aichi Blood Ctr), Ohtake S (Kanazawa Univ), Kobayashi Y (Natl Cancer Ctr), Matsuo K (Aichi Cancer Ctr Res Inst), Kiyoi H¹⁾ (Nagoya Univ), Miyazaki Y (Nagasaki Univ), Naoe T²⁾ (Natl Hosp Org Nagoya Med Ctr). High-dose methotrexate therapy significantly improved survival of adult acute lymphoblastic leukemia: a phase III study by JALSG. *Leukemia* 2018; 32(3) : 626-32.
- 20) Takahashi N (Akita Univ), Tauchi T (Tokyo Med Univ), Kitamura K (Ichinomiya Municipal Hosp), Miyamura K (Japanese Red Cross Nagoya Daiichi Hosp), Saburi Y (Oita Pref Hosp), Hatta Y (Nihon Univ), Miyata Y¹⁾, Kobayashi S (Natl Defense Med Coll), Usuki K (NTT Med Ctr Tokyo), Matsumura I (Kindai Univ), Minami Y (Natl Cancer Ctr Hosp East), Usui N, Fukuda T (Tokyo Med Dent Univ), Takada S (Saiseikai Maebashi Hosp), Ishikawa M (Saitama Med Univ), Fujimaki K (Fujisawa City Hosp), Gomyo H (Hyogo Cancer Ctr), Sasaki O (Miyagi Cancer Ctr), Ohishi K (Mie Univ), Miyake T (Shimane Univ), Imai K (Sapporo Hokuyu Hosp), Suzushima H (Kumamoto Shinto General Hosp), Mitsui H (Otemae Hosp), Togitani K (Kochi Med Sch), Kiguchi T (Chugoku Central Hosp), Atsuta Y

- (Japanese Data Ctr), Ohtake S (Kanazawa Univ), Ohnishi K (Japanese Red Cross Aichi Blood Ctr), Kobayashi Y (Int Univ Health Welfare), Kiyoi H (Nagoya Univ), Miyazaki Y (Nagasaki Univ), Naoe T¹⁾ (¹ Natl Hosp Org Nagoya Med Ctr). Deeper molecular response is a predictive factor for treatment-free remission after imatinib discontinuation in patients with chronic phase chronic myeloid leukemia: the JALSG-STIM213 study. *Int J Hematol* 2018; 107(2): 185-93.
- 21) Yanada M (Fujita Health Univ), Mori J (Joban Hosp), Aoki J¹⁾, Harada K²⁾, Mizuno S (Aichi Med Univ), Uchida N (Toranomon Hosp), Kurosawa S³⁾, Toya T²⁾ (² Komagome Hosp), Kanamori H¹⁾ (¹ Kanagawa Cancer Ctr), Ozawa Y (Japanese Red Cross Nagoya Daiichi Hosp), Ogawa H (Hyogo Coll Med), Henzan H (Hamanomachi Hosp), Iwato K (Hiroshima Red Cross Hosp), Sakura T (Saiseikai Maebashi Hosp), Ota S (Sapporo Hokuyu Hosp), Fukuda T³⁾ (³ Natl Cancer Ctr Hosp), Ichinohe T (Hirshoshima Univ), Atsuta Y (Nagoya Univ, Japanese Data Ctr Hematopoietic Cell Transplantation), Yano S. Effect of cytogenetic risk status on outcomes for patients with acute myeloid leukemia undergoing various types of allogeneic hematopoietic cell transplantation: an analysis of 7812 patients. *Leuk Lymphoma* 2018; 59: 601-9.
- 22) 川島雅晴, 矢野真吾, 齋藤 健, 横山洋紀, 町島智人, 島田 貴, 矢萩裕一, 小笠原洋治, 杉山勝紀, 高原 忍, 南 次郎, 神山祐太郎, 勝部敦史, 鈴木一史, 土橋史明, 薄井紀子, 相羽恵介. チロシンキナーゼ阻害薬時代の慢性骨髄性白血病に対する同種造血幹細胞移植の治療成績. *日造血細胞移植会誌* 2018; 7(1): 9-16.
- ## II. 総 説
- 1) 矢萩裕一. 【血液腫瘍に対する免疫療法の新たな展開】CD19を標的とするBiTE抗体blinatumomabの作用機作と臨床開発. *血液内科* 2017; 74(1): 6-12.
- 2) 薄井紀子. 【血液疾患, 診断と治療の trends & topics】慢性骨髄性白血病. *Mebio* 2017; 34(6): 23-32.
- 3) 薄井紀子. 非定型慢性骨髄性白血病と慢性好中球性白血病の病態と診断. *血液内科* 2017; 74(2): 279-84.
- 4) 薄井紀子. Gemtuzumab ozogamicinの臨床効果最近の知見. *血液内科* 2017; 75(3): 381-8.
- 5) 薄井紀子. 【血液腫瘍の最近のトピック】AMLの標準療法とCPX351. *腫瘍内科* 2017; 20(5): 350-7.
- 6) 薄井紀子. 【がん分子標的薬の効果と副作用-期待される効果と評価-】抗体薬 その他のCD抗体薬(抗CD30抗体薬, 抗CD33抗体薬, 抗CD52抗体薬). *日臨* 2017; 75(9): 1324-31.
- 7) 薄井紀子. 【白血病・リンパ腫・骨髄腫 新時代の造血器腫瘍診療】治療 造血器腫瘍の最新治療戦略 急性骨髄性白血病の治療 病型および予後層別化因子に基づく診療. *Med Pract* 2017; 34(10): 1669-74.
- 8) 薄井紀子. 【白血病診療の実際-最新の診断と治療】成人急性白血病の診療 現状と展望. *日医師会誌* 2017; 145(12): 2573-7.
- 9) 薄井紀子. Current Organ Topics Hematologic Malignancies/Pediatric Malignancies 血液・リンパ系腫瘍 急性白血病 治療の現状と展望 総括. *癌と治療* 2017; 44(5): 378-9.
- 10) 大場理恵, 薄井紀子. 病気のはなし慢性骨髄性白血病. *検と技* 2017; 45(12): 1302-8.
- ## III. 学会発表
- 1) 鈴木一史, 西脇嘉一, 佐野公司, 香取美津治, 横山洋紀, 川島雅晴, 増岡秀一, 相羽恵介, 矢野真吾. (ポスター) ボルテゾミブを含む初期治療を受けた多発性骨髄腫患者における体重の臨床的意義. 第42回日本骨髄腫学会学術集会. 東京, 5月.
- 2) Suzuki K, Yano S, Nishiwaki K, Shimada T, Yahagi Y, Sugiyama K, Ogasawara Y, Takahara S, Saito T, Minami J, Yokoyama H, Kamiyama Y, Katsube A, Masuoka H, Katori M, Sono K, Kawashima M, Dobashi N, Kaito K, Usui N, Aiba K. (Poster) Clinical implication of granule containing myeloma cells; a long follow-up report. The 8th JSH international Symposium. Miyazaki, May.
- 3) 石井彰子, 南 次郎, 島田 貴, 矢野真吾, 杉山勝紀, 小笠原洋治, 高原 忍, 齋藤 健, 神山祐太郎, 勝部敦史, 町島智人, 郡司匡弘, 仲野 彩, 大島さやか, 服部大樹, 石見公瑠美, 土橋史明, 薄井紀子, 相羽恵介. (口頭) 化学療法が奏効し同種移植を施行し得た二次性骨髄線維症を伴う急性骨髄性白血病 (M6) の1例. 第7回日本血液学会関東甲信越地方会. 松本, 7月.
- 4) 永崎栄次郎, 工藤 麗, 石垣貴之, 井廻良美, 神尾麻紀子, 塩谷尚志, 野木裕子, 鳥海弥寿雄, 小林 直, 武山 浩. (ポスター) 積極的化学療法と集学的治療を行った少数転移乳癌 (OMBC) の長期成績. 第25回日本乳癌学会学術総会. 福岡, 7月. [日乳癌プログラム抄集 2017; 25回: 313]
- 5) 鈴木一史, 西脇嘉一, 佐野公司, 香取美津治, 横山洋紀, 川島雅晴, 増岡修一, 矢野真吾, 土橋史明, 薄井紀子, 相羽恵介. (ポスター) ボルテゾミブを含む初期治療を受けた多発性骨髄腫患者における体重の臨

- 床的意義. 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会. 神戸, 7月.
- 6) 仲野 彩, 鈴木一史, 佐野公司, 川島雅晴, 横山洋紀, 香取美津治, 増岡秀一, 西脇嘉一, 相羽恵介. (ポスター) Sweet 病を合併し, 予後不良だった骨髄異形成症候群/骨髄増殖性腫瘍の一例. 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会. 神戸, 7月.
- 7) Ishii H, Ohba R, Fukushima R, Shiota Y, Yahagi Y, Dobashi N, Usui N, Yano S. (Poster) Therapy-related acute myeloid leukemia in patients treated for non-Hodgkin lymphomas. 第79回日本血液学会学術集会. 東京, 10月.
- 8) Suzuki K, Nishiwaki K, Yokoyama H, Katori M, Sano K, Kawashima M, Masuoka H, Dobashi N, Usui N, Yano S. (Poster) Elotuzumab, lenalidomide plus demxamethasone in multiple myeloma; a single institute experience. 第79回日本血液学会学術集会. 東京, 10月.
- 9) Gunji T, Yano S, Saito T, Minami J, Yokoyama H, Shimada T, Ogasawara Y, Katsube K, Kamiyama Y, Nakano A, Oshima S, Ishii S, Hosoba R, Tasaki T, Dobashi N, Usui N. (Poster) The retrospective analysis of predictive value of allogeneic stem cell transplantation for NHL. 第79回日本血液学会学術集会. 東京, 10月.
- 10) Hosoba R¹⁾, Yahagi Y¹⁾, Uryu H¹⁾, Yamaguchi K¹⁾, Yamazaki Y¹⁾ (¹ Kawaguchi Municipal Med Ctr). (Poster) Treatment results in patients with myeloma who are undergoing dialysis. 第79回日本血液学会学術集会. 東京, 10月.
- 11) Oshima S, Saito T, Gunji T, Tasaki T, Usui N, Dobashi N, Shimada T, Uwagawa T, Arakawa Y, Yokoyama H, Minami J, Katsube A, Kamiyama Y, Hayashi K, Nakano A, Hosoba R, Tamura M, Yano S. (Poster) FLU-BU versus BU-CY for myeloid malignancies in allo- HSCT: Single institute retrospective analysis. 第79回日本血液学会学術集会. 東京, 10月.
- 12) Nakano A, Kamiyama Y, Saito T, Shimada T, Yahagi Y, Shiota Y, Minami J, Katsube A, Suzuki K, Gunji T, Ishii S, Oshima S, Hosoba R, Usui N, Yano S. (Poster) The role of HDT/ASCT as consolidative therapy for MCL patients: single institute analysis. 第79回日本血液学会学術集会. 東京, 10月.
- 13) Shiota Y, Dobashi N, Ito Y, Hosoba R, Yamauchi H, Ishii H, Fukushima R, Ohba R, Yahagi Y, Usui N, Yano S. (Poster) Treatment outcomes of patients with primary diffuse large B-cell CNS lymphoma. 第79回日本血液学会学術集会. 東京, 10月.
- 14) Yamauchi H, Yokoyama M¹⁾, Misima H¹⁾, Nishimura M¹⁾, Kusano Y¹⁾, Inoue N¹⁾, Nishihara A¹⁾, Terui Y¹⁾, Hatake K¹⁾ (¹ The Cancer Inst Hosp). (Poster) Acquired chromosomal abnormalities t (14; 16); del (17p); or del (13q), after receiving chemotherapies predict the poor prognosis of multiple myeloma. 59th ASH (American Society of Hematology) Annual Meeting, Atlanta, Dec. [Blood 2017; 130(Suppl.1) : 3116]
- 15) 鈴木一史, 西脇嘉一, 香取美津治, 横山洋紀, 瓜生英樹, 増岡秀一, 薄井紀子, 矢野真吾. (ポスター) 多発性骨髄腫患者に対する少量シクロホスファミド療法を用いた自家末梢血幹細胞採取. 第40回日本造血細胞移植学会総会. 札幌, 2月.
- 16) 細羽梨花, 齋藤 健, 南 次郎, 勝部敦史, 神山祐太郎, 郡司匡弘, 仲野 彩, 大島さやか, 石井彰子, 土橋史明, 薄井紀子, 島田 貴, 矢野真吾. (ポスター) 強度減弱前処置を用いた臍帯血移植に対する生着不全症例の検討. 第40回日本造血細胞移植学会総会. 札幌, 2月.
- 17) 石井敬人, 齋藤 健, 福島僚子, 仲野 彩, 郡司匡弘, 横山洋紀, 大場理恵, 南 次郎, 塩田祐子, 矢萩裕一, 土橋史明, 薄井紀子, 矢野真吾. (ポスター) 髄外病変を有する急性骨髄性白血病 (AML) に対する同種造血幹細胞移植の後方視的検討. 第40回日本造血細胞移植学会総会. 札幌, 2月.
- 18) 勝部敦史, 齋藤 健, 細羽梨花, 大島さやか, 石井彰子, 仲野 彩, 郡司匡弘, 神山祐太郎, 南 次郎, 島田 貴, 土橋史明, 薄井紀子, 矢野真吾. (ポスター) 悪性リンパ腫に対する自家造血幹細胞移植を併用した AECC 療法と MEAM 療法の比較検討. 第40回日本造血細胞移植学会総会. 札幌, 2月.
- 19) 仲野 彩, 齋藤 健, 神山祐太郎, 勝部敦史, 横山洋紀, 細羽梨花, 石井彰子, 大島さやか, 郡司匡弘, 南 次郎, 土橋史明, 島田 貴, 薄井紀子, 矢野真吾. (ポスター) TKI 単独で治療し同種移植を施行した慢性骨髄性白血病急性転化の6例. 第40回日本造血細胞移植学会総会. 札幌, 2月.
- 20) 平野 慧, 南 次郎, 島田 貴, 齋藤 健, 横山洋紀, 勝部敦史, 神山祐太郎, 郡司匡弘, 石井彰子, 大島さやか, 細羽梨花, 西脇嘉一, 土橋史明, 薄井紀子, 矢野真吾. (口頭) ABO 主不適合同種移植後の後天性赤芽球癆に対しデキサメタゾン大量療法が奏効した骨髄異形成症候群の1例. 第8回日本血液学会関東甲信越地方会. 東京, 3月.

IV. 著 書

- 1) 矢野真吾. FN およびがん薬物療法時に起こる感染症の予防 CQ16. がん薬物療法を行う場合 (同種造

血幹細胞異色は除く), どのような患者に抗ヘルペスウイルス薬の予防投与は推奨されるか? 日本臨床腫瘍学会編, 発熱性好中球減少症 (FN) 診療ガイドライン, 改訂第2版, 東京: 南江堂, 2017, p.60-2.

- 2) 島田 貴訳, 4章: 心血管系 V. 造血系, VI. リンパ系, 栗原 敏監修, 大橋十也, 岡野ジェイムス洋尚, 本郷賢一, 横尾 隆監訳, イラストレイテッド統合臨床基礎医学: リッピンコットシリーズ, 東京: 丸善出版, 2018, p.208-22.
- 3) 薄井紀子, III. 造血系・リンパ系疾患 急性骨髄性白血病, 小澤敬也 (東京大), 中尾真二 (金沢大), 松村 到 (近畿大) 編, 血液疾患最新の治療 2017-2019, 東京: 南江堂, 2017, p.119-22.
- 4) 大場理恵, 薄井紀子, 造血器 CQ3. 拳児希望を有する急性白血病に勧められる妊孕性温存療法は? 日本癌治療学会編, 小児, 思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドライン, 2017年版, 東京: 金原出版, 2017, p.123-4.
- 5) Usui N. Inotuzumab ozogamicin for acute lymphoblastic leukemia: clinical pharmacology and therapeutic results. In: Ueda T (Univ Fukui), ed. Chemotherapy for Leukemia: Novel Drugs and Treatment. Singapore; Springer, 2017, p.123-36.

V. その他

- 1) 伊藤勇太, 野田健太郎, 相羽恵介, 矢野真吾, 藤井常宏 (富士市立中央病院), Pegfilgrastim 投与後に薬剤誘発性血管炎を発症したびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫, 臨血 2017; 58(11): 2238-42.
- 2) Arakawa Y, Tamura M, Aiba K, Morikawa K, Aizawa D, Ikegami M, Yuda M, Nishikawa K. Significant response to ramucirumab monotherapy in chemotherapy-resistant recurrent alpha-fetoprotein-producing gastric cancer: a case report. Oncol Lett 2017; 14(3): 3039-42.
- 3) 西脇嘉一, 佐野公司, 神山祐太郎, 林 和美, 田上晋, 香取美津治, 増岡秀一, 相羽恵介, 成人劇症型再生不良性貧血に対する強度減弱前処置を用いた非血縁者間臍帯血移植, 臨血 2018; 59(1): 64-8.
- 4) 大場理恵, 薄井紀子, 伊藤勇太, 山内浩文, 町島智人, 石井敬人, 福島僚子, 横山洋紀, 塩田祐子, 矢萩裕一, 矢野真吾, 土橋史明, 相羽恵介, Azacitidine 治療が奏効し臍帯血移植を施行した骨髄線維化を伴う骨髄異形成症候群, 臨血 2017; 58(6): 601-6.

呼吸器内科

教授: 桑野 和善	呼吸器内科学, 間質性肺炎, 慢性閉塞性肺疾患
教授: 児島 章	呼吸器内科学, 肺癌
准教授: 中山 勝敏	呼吸器内科学, 慢性閉塞性肺疾患, 気管支喘息
准教授: 荒屋 潤	呼吸器内科学, 間質性肺炎, 慢性閉塞性肺疾患
講師: 高木 正道	呼吸器内科学, 肺癌
講師: 斎藤 桂介	呼吸器内科学, 感染症
講師: 沼田 尊功	呼吸器内科学
講師: 原 弘道	呼吸器内科学

教育・研究概要

I. 教育

日本における呼吸器病学は、結核病学一辺倒の時代から、肺生理学中心の時代を経て、遺伝学、生化学、分子生物学における最新技術の進歩によって、感染症、肺癌、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患 (COPD)、間質性肺炎など主要な呼吸器疾患の病態の解明が可能となった。高齢化社会の到来に伴い、呼吸器疾患の重要性は増している。COPD、特発性肺線維症、肺癌など加齢関連肺疾患の病態に関する研究が注目されている。若手の医師が将来の呼吸器病学を担うことができるように成長するには、呼吸器疾患の指導医が、臨床と研究の両面において若手を育てる意思を持って教育する必要がある。

当科のカリキュラムは、内科認定医の取得に始まり、呼吸器専門医から呼吸器指導医資格取得できる指導体制と研修システムを確立している。呼吸器疾患は、直接生死に関わる領域であり、気管支鏡、胸腔ドレナージ、人工呼吸器など体得すべき専門的技術も多い。また、腫瘍学、免疫学、生理学、生化学、分子生物学など基礎知識の習得と、肺癌、アレルギー疾患、COPD、間質性肺炎、感染症などの専門各分野のいずれかのエキスパートとなるために、それぞれの分野の学会の専門医取得はもちろん、大学院、留学などによる研究を奨励している。当科の教育目標は、臨床と研究を通じて、幅広く内科学を習得し、呼吸器内科学を専門とする実力ある内科医を育成することで社会に貢献することを目標としている。

学生、研修医、レジデント、スタッフ一体となった入院・退院症例のカンファレンスは、毎週2〜3時間をかけて行い、症例プレゼンテーションは、主に学生と研修医が行い、容赦のない質問が指導医よ